毒憩室

使用器具 

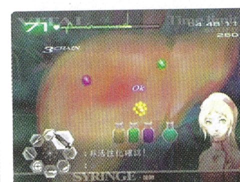
臓器表面が袋状に膨れ上がった症状。トリーティ(28ページ)と呼ばれるギルスが作り出すもので、一定時間で破裂して毒素をばらまく。毒憩室は、同色の血清を投与して非活性化させたあと、切り抜いて摘出、人工膜で傷痕を治療するという術式で処置する。血清の効果切れと摘出失敗が評価を下げる対象となるので注意しておこう。なお、致命的ではないが、憩室をひとつずつ処置していると、3つ目の毒憩室が破裂してしまう可能性がある。血清投与から切開までをすべての憩室に行なってから摘出といった手順を取ろう。

▶評価・判定ポイント

- 血清の効果が切れるまえに切開
- 摘出時にミスなし

●毒憩室の手順

1. 注射器 ………同色の血清を投与
2. メス……………毒憩室の周囲を切開
3. ピンセット ……切開した毒憩室を摘出
4. ピンセット ……切除痕に人工膜を配置
5. ヒールゼリー …人工膜に塗り、定着させる



①注射器 SYRINGE

同色の血清を毒憩室に投与すると切開のガイドラインが表示される。効果が切れるまえに切り取ろう。



④ピンセット FORCEPS

毒憩室摘出後の傷痕は、腫瘍摘出の術式と同様に人工膜を移植し、ヒールゼリーを塗布してふさぐ。

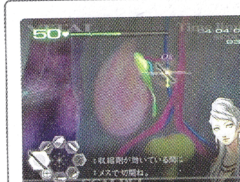
臓器移植

使用器具 

腎臓を移植し、そこから伸びている血管を患部の同色の血管へとつなぐ臓器移植の術式。最初の腎臓設置は人工膜設置時の要領で処置すれば問題ない。次に注射器で血管への収縮剤の投与を行なうが、収縮した血管は時間経過とともに元のサイズへと戻ってしまう。収縮させたら、その後の切開、ドレーン、吻合までを続けて進めないとやり直しになってしまうので注意したい。最後につなげた血管を縫合して完了だ。この手順を繰り返し、動脈、静脈、膀胱の血管を吻合しよう。

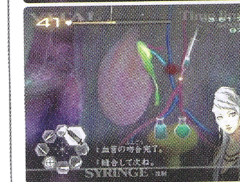
●臓器移植の手順

1. ピンセット ……移植臓器を所定の位置に設置
2. 注射器 ………血管に収縮剤を投与
3. メス……………収縮した血管を切開
4. ドレーン ………切開部の血だまりを吸引
5. ピンセット ……血管を切開部に吻合(くっつける)
6. 針と糸 ………吻合した血管を縫合



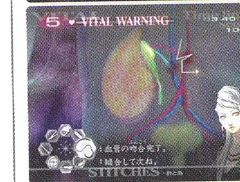
②注射器 SYRINGE

投与量に応じて血管は縮み、一定量で最小になる。最小時のみ切開のガイドラインが表示される。



③メス SCALPEL

切開が完了するまえに、ガイドラインが消えてしまった場合は、収縮剤の投与からやり直しになる。



⑥針と糸 STITCHES

吻合部を覆うように縫合を行なう。失敗の表示はされないので、成功するまで縫合し続けよう。

キリアキ

使用器具 

臓器内に潜み、裂傷を生み出すギルス。エコーで探知したあと臓器表面に露出させ、レーザー焼却で殲滅していこう。キリアキは直線移動を行なっているので、探知後に移動する直線上で待ち構えて本体の影を切開すれば、すばやく臓器表面に出すことができる。まずはこの手順を修得したい。その後レーザーを数回照射すれば焼却完了だ。なお、ひとまわり大きなキリアキマザーは、エコー探知とメスでの露出を何度か繰り返し、レーザー照射をし続ければ倒すことができる。

●キリアキの手順

1. スキャナ………エコー機能でキリアキを表示
2. メス……………キリアキ表面の患部を切開
3. レーザー………切り出したキリアキを焼却
4. 針と糸 ………出血線の縫合
5. 注射器 ………バイタルの回復
6. ヒールゼリー …切り傷の治療



②メス SCALPEL

臓器内に潜っているキリアキをメスで露出させたら、レーザーへと切り替えてすぐさま照射。



④針と糸 STITCHES

キリアキが作った出血線は、合間をみてすばやく縫合すること。バイタルの低下を未然に防ごう。



⑤注射器 SYRINGE

殲滅させたあとは、次のキリアキに備えて、出血線の縫合と同時にバイタルも回復させておこう。

デフテラ

使用器具 

自身の遺伝子を無限に複製し、ギルス性腫瘍を生み続けるギルス。色違いのデフテラは、接触すると互いを侵食しようと試みるが、その瞬間が処置のチャンス。接触中に細胞質を吸引し、これを繰り返して硬質化させれば切除が可能だ。なお、ガイドライン表示中はバイタルが大幅に減少する。このときにバイタルが低すぎると、手術失敗もありえる。そうならないために最も優先すべきは、デフテラの生み出すギルス性腫瘍をいち早くレーザーで焼却し、バイタル低下を抑えておくことである。

●デフテラの手順

1. レーザー………デフテラが生み出す腫瘍を焼却
2. ドレーン ………色違いで合体時に体組織を吸引
3. メス……………デフテラを患部から切り離す
4. ピンセット ……硬質化したデフテラを摘出
5. ピンセット ……切開痕に人工膜を設置
6. ヒールゼリー …設置した人工膜を定着



②ドレーン DRAIN

同色で合体した場合は、細胞質の吸引ができない。その際は併発している腫瘍の焼却を行なおう。



③メス SCALPEL

細胞質吸引を3度行なうと硬質化。回数を覚えておけば、メスへの器具変更タイミングが事前にわかる。



⑤ピンセット FORCEPS

デフテラが2対の場合、駆除した1対への人工膜は後回しにし、バイタル回復や腫瘍焼却を優先する。